

○中部地方整備局優良工事表彰



7月22日、中部地方整備局において、平成20年度の建設事業関係功労者（1名）及び優良工事（計385件）の局長表彰が行われました。当事務所関係では「平成19年度三河港航路泊地（－12m）航路部浚渫工事」が優良工事となり中部地方整備局長表彰を、本工事の請負業者である神野建設（株）が三河港湾事務所長表彰、また、下請業者の内、浚渫工を担当した大新土木（株）が三河港湾事務所長感謝状を受け取られました。

事務所長表彰（神野建設（株）） 本工事は三河港の航路を拡幅増深するもので、GPSシステムを利用した浚渫方法や補助船の使用などにより、効率的かつ安全な工事を行ったことが評価されたものでした。より安全で高品質の工事を行うには、請負業者の方々の協力が不可欠であると、今回の表彰を通じて実感しました。

○海事関係功労者表彰式

7月23日、名古屋港湾会館（名古屋市）で開催された平成20年「海の日」記念式典において、平成20年度の国土交通省海事関係功労者表彰式が行われました。

中部地方整備局関係では、永年にわたり港湾の振興発展、整備促進に寄与して頂いた団体又は個人に対して「港湾空港関係功労者（港湾の振興発展等）表彰」を、港、海浜等の美化活動へ尽力をつくして頂いた団体に対して「海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰」を行いました。

今後、国民の皆様に、より一層海に対する理解や関心を深めていただき、皆様と共に豊かな海とみなとの発展の実現につくしていきたいと思います。当事務所管内では、次の方々が受賞されました。



式典の様子



局長表彰

件名	受賞者	内容
港湾空港関係功労者表彰	永島 卓 さま	平成8年4月に碧南市長に就任以来3期12年にわたり衣浦港を中心とした碧南市の発展に卓越した手腕を発揮されました。
	深谷 泰範 さま	平成6年7月に旧御津町長に就任以来福祉・教育行政を推進するとともに、臨海部の産業振興にご尽力されるなど、13年にわたり旧御津町の発展に卓越した手腕を発揮されました。
海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰	ヤマサちくわ（株） さま	創業当時から原料魚の主漁場であった表浜の恵みに感謝するため、創業170周年を記念して平成9年から、毎年愛知県の渥美半島の豊橋市寺沢町表浜海岸における海岸清掃活動を行い、郷土の渥美半島を美しく保とうと、海岸環境美化活動に努めて頂きました。

○アクアフェスタ2008

7月27日、豊橋市上下水道局（豊橋市）において、「アクアフェスタ2008」が開催されました。このイベントは、水に関する様々な展示物を通じて、水の大切さを再認識してもらおうと毎年開催されているものです。

様々な体験コーナーや資料展示が行われましたが、中でも一番人気だったのは、ニジマスのつかみ取りで、大勢の子供たちがニジマスが泳ぐプールの中



シーブルー事業の紹介

中で、悪戦苦闘しながらニジマスのつかみ取りに興じていました。その他、会場周辺の豊川を散策する「リバーウォーク豊川」や各ブースの展示物に隠されたキーワードを探す「クイズラリー」などが行われました。

当事務所では「三河湾浄化コーナー」と題し、当事務所のシーブルー事業を紹介するパネル展示を行いました。当日は、夏休み最初の日曜日であり、厳しい暑さにもかかわらず、親子連れを中心に約2,800人の来場者が訪れました。



野崎豊橋市副市長の挨拶

★ ホームページで、Mini-WANバックナンバーをご覧ください。 <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp> ★



Mini-WANとは

港や海に関連する新鮮な話題を中心に、地元の皆さんとのつながりを大切にする広報誌です。

■巻頭コラム

■最近のトピックス

- 工事安全パトロール実施 ○JICA研修生が三河港視察
- 豊浜鯛まつり ○水辺クリーン・アップ大作戦
- 大塚海浜緑地開園式 ○第26回蒲郡まつり
- みなとフェスティバル2008 ○中部地方整備局優良工事表彰
- 海事関係功労者表彰式 ○アクアフェスタ2008

☆巻頭コラム☆

三河港湾事務所長 塩田 昌弘

暑い日が続きます。今月は、太平洋と三河湾という全く性格の異なる2つの海でのイベントを楽しみました。

1つ目は、太平洋側。国内でも有数のサーフィンのメッカ、田原市の赤羽根海岸で、サーフィンの世界大会『2008 A. S. P. WQS 6スター田原プロ』を観戦してきました。アメリカ、オーストラリア、ブラジル等世界各国から192名のトップサーファーが参加しての大イベント。自分自身は経験ゼロで、本物を見るのも初めてでした。当日は、残念ながら（？）日本周辺が高気圧に覆われていたせいか、波が小さめだったようで、テレビで見るようなビッグ・ウェイブは見る事が出来ませんでした。世界最高レベルの華麗なパフォーマンスを楽しむことができました。

2つ目は、三河湾側。最近、人気上昇中という噂のマンガ漁。底引き漁の1種ですが、漁具に鉄製のつめがついており、砂に隠れている魚介類もとりやすくなっています。断然多くとれたのはシャコですが、タコ、カレイ、赤貝などもとれました。乗船者の中には、スナメリ（三河湾に生息する小型のイルカ。背びれがないため見つけにくい。）を目撃できた運のいい人もいました。残念だったのは、空き缶などのゴミも一緒に取れたことや、場所によってはヘドロの臭いも若干感じられたこと。中部地方整備局では、平成19年3月に取りまとめられた伊勢湾再生計画に基づき、「豊穰な宝の海を取り戻す」ことを目指しています。三河港湾事務所でも、平成16年度まで行われたシーブルー事業の再開に向け、新たな干潟造成材を検討していますので、ご協力よろしくお願い致します。



（注）私ではありません。

「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル



おーいに よくなれ みなと

0120-497-370

受付時間※/9:00～12:00と13:00～17:00(土・日・祝祭日を除く)

※一部の地域を除きます。



●全国どこからでも、この電話番号で最寄りの『海とみなとの相談窓口』につながります。

○工事安全パトロール実施

建設業の工事中の事故による死傷者数は、近年減少傾向ではありますが、ひとたび事故が起きると被災程度が大きく、死亡につながる可能性が非常に高いという傾向があります。また、その中で港湾工事は、海上作業、潜水作業や作業船等の使用などの特殊な作業があり、当事務所では、毎月、発注者と工事業者による安全点検を行っております。7月は様々な視点で安全点検を行うため、中部地方整備局港湾空港整備・補償課の担当の方に来て頂き、9日は三河港内、28日は衣浦港内で工事の安全点検を行いました。

三河港ではケーソン（コンクリートの箱。サイズは9m×8.5m×2.9m）製作工事の安全点検を行いました。この工事は高さ約10mでの作業を伴うため、足場からの墜落事故防止対策を重点に点検を行いました。ちなみに、死亡事故の中でも最も多いのが墜落・転落事故です。

また、衣浦港では浚渫（しゅんせつ）工事の安全点検を行いました。この工事は浚渫船を使った船上作業が主となる港湾特有の作業であり、狭い船上に様々な機器があるため整理整頓や転落防止対策の点検を行いました。

現場確認後は近年の事故データにより事故傾向の把握や事故防止対策等の確認を行いました。この経験を生かし、今まで進めてきた対策に加え、ヒューマンエラーによる事故の防止等の新たな視点の対策を考え、事故ゼロを目標に今後も工事を進めていきたいと思います。

○JICA研修生が三河港視察

開発途上国への技術協力の支援事業を行っているJICA（（独）国際協力機構）では、毎年各国の港湾関係職員を対象に「港湾開発・計画」研修を開催しており、その一環として各国の研修生14名が7月10日に三河港を視察されました。研修の目的は、日本の港湾開発、計画等に対する理解を深めると共に、自国の港湾開発、計画の策定等に役立てるためで、約2ヶ月の間、全国各地で研修を実施しています。

当日は、三河港が一望できるポートインフォメーションセンター「カモメリア」（豊橋市）で、当事務所より「三河港の現状」を説明し、続いて（社）東三河地域研究センターの金子常務理事より「国際自動車港湾（自動車コンプレックス計画）について」をテーマにした講演が行われました。その後、フォルクスワーゲングループジャパン（株）本社の視察を行い、自動車取扱量では世界5大港の一つである三河港への理解を深めました。中東やアジアの方に三河港を知って頂く良い機会になりました。

○豊浜鯛まつり



鯛の御輿が練り歩く様子

7月19日、20日、南知多町の豊浜漁港周辺で「鯛まつり」が開催されました。「鯛まつり」は大漁と海の安全を祈るまつりとして、明治以来の伝統を誇っています。両日とも日差しが強く、ほんの数十分の間、外にいただけで肌がチリチリと痛くなるような日でしたが、地元の皆さんの活気の良さにつられてか、祭りは多数の来場者で賑わいました。

19日は、初日の夜を飾るイベントとして花火大会が開催され、花火をさかんに宴会をしているグループや、出店で買い込んだ食べ物を食べながら見物している人など思い思いのスタイルで夜空に打ちあがる花火を楽しんでいました。20日は豊浜漁港周辺の5地区で作られた巨大な鯛の御輿が練り歩き、その迫力のある様子に、来場者は皆、圧倒されていました。



三河港のケーソン製作工事の現場



カモメリアの展望室から三河港見学



花火と宴

○水辺クリーン・アップ大作戦



清掃活動の状況

7月12日、半田市の衣浦港中央ふ頭西地区と亀崎海浜緑地において、半田市民憲章実践協議会の主催による水辺クリーン・アップ大作戦が行われました。参加者は約1,250名で、岐阜県などの遠方から参加されている方もいたようです。清掃の開始にあたり、半田市榊原伊三市長から「半田市は江戸時代から衣浦港を使って廻船で江戸などに酢や酒などを運び栄えてきた。衣浦港から半田市のまちづくりを行っていきたい。」と挨拶を頂きました。梅雨明け直後ということもあり、外に立っているだけでも汗ばむような陽気でしたが、子供を連れた家族などの参加者も多数見られ、港周辺の美化に励んでいました。約1時間の清掃作業でしたが、回収したゴミの量はなんと2tダンプ19台分もあったそうです。当事務所からも7名が清掃活動に参加しました。

○大塚海浜緑地開園式

7月20日、ラグーナ蒲郡に隣接する大塚海浜緑地の開園式が指定管理者の蒲郡海洋開発(株)により行われました。式典には、地域の代表者や愛知県、蒲郡市から関係者約50名の方が参加しました。

地元蒲郡市を中心に活動している響（どん）の力強い和太鼓の演奏で幕を開け、中部地方整備局宮本港湾空港部長が、「快適で楽しいスポットとして海辺のにぎわいづくりに取り組んでいただきたい」と祝辞を述べました。杉田元司衆議院議員、大竹正人愛知県議会議員、愛知県西村真副知事、蒲郡市金原久雄市長、大塚西保育園の代表者らによるテープカットで開園を祝いました。その後、よさこいチームによる演舞や、大塚西保育園児による宝探し大会やミニエキスポレスの体験乗車が行われました。また、8月17日まで、オープニングイベントが開催されました。

○第26回蒲郡まつり

7月19日、20日の2日間、三河港蒲郡地区周辺において、蒲郡の夏の風物詩である「第26回蒲郡まつり」が開催されました。19日は、蒲郡中心部の中央通り商店街の歩行者天国で、和太鼓競演などの伝統芸能の披露やフリーマーケット等が、20日は、30チーム総勢1000名の踊り子による元気まつり、「南海に生きて生きて生きたかった夢は未来に」と題討った創作ミュージカル等



豪快な花火

が催されました。また、20日の夜には、恒例の納涼花火大会が行われ、夜空に色取り取りの花火が打ち上げられました。その中でも、特に目を引いたのが三尺玉といわれる30号（直径90cm）の巨大花火です。これは国内では2番目に大きな花火で、太平洋側では日本一です。打ち上げ直後の開いた状態では約650m、なんと竹島の約3倍もの大きさです。打ち上げ後は、観覧者から盛大な拍手が湧き起こり、蒲郡まつりのラストを飾りました。

○みなとフェスティバル2008

7月21日（海の日）、ポートインフォメーションセンター「カモメリア」（豊橋市）周辺において「豊橋みなとフェスティバル2008」が開催されました。

当日は朝から大勢の来場者で賑わい、特に親子連れの姿が目立ちました。会場では海上保安庁巡視船「いすず」の一般公開や移動水族館といった海に関連したイベントが随所で行われており、その中でも三河港内を船で遊覧する三河港クルーズには受付開始前から長蛇の列が出来ほどの盛況ぶりでした。

こうしたイベントを機に皆様にみなとへ足を運んで頂きより身近に感じて頂ければと思います。



テープカット



元気まつり



オープニング



「いすず」一般公開